

横須賀市で 238 戸の太陽光発電付スマートコミュニティ誕生 神奈川県 黒岩知事に報告すると共に、プロジェクトを公式発表

株式会社リビングライフ(本社：東京都世田谷区、代表：炭谷久雄)は、株式会社アサカワホーム(本社：東京都立川市、代表：細淵弘之)、有限会社三嘉(本社：神奈川県横浜市、代表：黒川賢治)と共に、神奈川県がスタートした「かながわスマートエネルギー構想」への賛同から、全戸に太陽光発電を標準装備した大規模宅地分譲プロジェクト【ライフアソート横須賀サンサタウン】の販売を開始します。それに先駆け、2月15日神奈川県黒岩知事に報告すると共に、プロジェクトの公式発表が行われました。

昨年の東日本大震災を経て、神奈川県では、太陽光発電を中心とした次世代エネルギー供給モデルの構築を目指した「かながわスマートエネルギー構想」を推進されています。【ライフアソート横須賀サンサタウン】はこの構想に賛同し、全戸太陽光発電を設置することを建築条件とし、まちづくりガイドラインを策定することで、単なる宅地分譲ではない、ゼロエミッション構想や電気エネルギーの自給自足を目指した、災害に強いまちづくりを行っていきます。



【ライフアソート横須賀サンサタウン】が誕生するのは、横須賀市森崎3丁目(森崎小学校隣。日産自動車森崎独身寮の跡地)。京浜急行「北久里浜」駅徒歩15分、標高約50mの丘の上です。

約4万1372㎡の広大な面積に、238区画の宅地と、二つの公園、集会所予定地が設けられる計画です。ガイドラインを策定し、タウン管理やタウンセキュリティを導入することで、まちなみの維持や防犯にも配慮していきます。建築条件付宅地分譲であるため、購入者の自由度の高い注文住宅が建てられることも魅力です。そして最大の魅力は、大規模であるというメリットを活かし、土地と太陽光発電付の建物を合わせて2000万円台後半から3000万円台中盤という、20代・30代のファミリーが購入しやすい価格帯で提供することです。



さらに、京セラ(ソーラーパネル)、東京ガス(エネファーム)、日産自動車(EV)、ミサワホーム東京(ハウスメーカー)の大手4企業とコラボレーションすることで、より購入者のニーズに応える商品を提供することが可能です。

太陽光発電システムは、

- ①国内大手メーカー製(3kw以上)
 - ②国内大手メーカー製(2kw以上)+エネファーム
 - ③海外メーカー製(3kw以上)
 - ④海外メーカー製(2kw以上)+エネファーム
- の4タイプから予算に合わせてセレクトすることができます。

EV(電気自動車)の充電コンセントもあらかじめ全戸に設置されます。近々実用化される予定の、EVを利用した住宅への電力供給にも対応可能にする予定です。

【ライフアソート横須賀サンサタウン】は238区画の住宅全てに太陽光パネルの設置ができるように、電柱の本数やトランス(変圧器)等の設備を事前に整備する予定です。購入者が後から設備費用を負担することがないような街づくりが工夫されています。



ソーラーパネル搭載住戸イメージイラスト



EV(電気自動車)用充電コンセント(参考写真)

コラボレーションカンパニー

EV(電気自動車)



ソーラーパネル



エネファーム



ハウスメーカー



【ライフアソート横須賀サンサタウン】では、事業主、コラボレーション企業共に太陽光パネル等を水道管やガス管と同様のライフラインと捉え、238区画というスケールメリットを活かし、極力原価でエンドユーザーに提供できるよう合意しており、「かながわスマートエネルギー構想」推進の一助となるスマートコミュニティになると位置づけています。

今後チラシや住宅情報誌、インターネットなどを通じて広告展開していきます。また、プロジェクトの発表会『サンサ・ファーストレセプション』を、3月17日(土)横須賀商工会議所にて開催する予定です。